

見張り塔から

ステイアの今

週刊誌を中心に、政治家を
含む有名人の不倫報道が続
く。一方で「線香疑獄」も含
め、政治犯罪の初報も週刊誌
であることが少なくない。し
かし前者が、当事者から訴え
られる可能性が低いのに対
し、権力悪を暴くような記事
は、名誉毀損で訴えられる危
険性と隣り合わせで、過去に
『FOCUS』や『噂の真
相』が事実上廃刊したのも
こうした訴訟リスクと無縁で
はない。そうした意味で、政
治家の疑惑報道が少ないの
は、法的に「守られている」
側面が拭えないのであって、
報道機関をすぐ訴えるのも

日本の政治家の特徴だから
だ。
名誉毀損法制は、歴史的に
は為政者批判を取り締まるた
めのものだった。いまはやり
の明治維新の新政府も、自ら
の地位安泰のために天皇・政
治家・高級官僚への批判を封
じ込めるための讒言律を制定
していた。
逆に言えば、表現の自由
は、こうした公権力に対する
批判拡大の歴史であって、日
本でも現憲法制定とともに、
刑法の名譽毀損罪を改正し、
表現の自由の領域を一気に拡

亭修大教授・山田健太さん



報道の自由

政治家報道の免責拡大を

大した。その方法はおおま
か世界共通で、社会的評価を低
下させるなど形式的には名誉
毀損が成立する場合でも、そ
の報道内容が真実であり、公
信に基づいたものであれば罪に
は問わないことにしている。
いわゆる免責要件と言われ
るもので、刑法の名譽毀損罪
の追加条文として公益性・公
益性・真実性が明記された。

当然のことながら、政治家の
汚職は明らかに公益・公共性
があるが、有名人の不倫が公
共の関心事がどうか疑わしい
面は残るだろう。一方で、不
倫の現場写真はわかりやすい
が、政治家の口利きやご意向
の証拠を示すことは極めて難

言をしてくれた内部告発者
が、裁判の法廷に引つ張り出
されると証言を覆すなどの事
例もあり、一筋縄ではいかな
いのが実態。
こうした状況を打破するも
のとして、米國などいくつか
の國では、さらなる工夫がな

名誉毀損法制を 巡るトピック

- 1947年 日本国憲法制定に伴い、刑法230条の名譽毀損罪の追加条文として、免責要件を規定
- 1966年 新聞の選挙候補者記事を巡る名誉毀損訴訟で、最高裁は「その事実を真実と信ずるに
ついて相当の理由があるとき」と
真実相当性を認め、真実性証明の
範囲を拡大
- 1981年 月刊ペン事件で池田大
作創価学会会長の公人性を裁判
所が容認、公益性範囲が拡大
- 1986年 北方ジャーナル事件で
名誉毀損を理由とする事前差し
止めを最高裁が容認
- 2001年ころ 最高裁が名誉毀損
訴訟の損害賠償額の引き上げ
を指す。これを受け、従来は5

ルールがないことを理由に、
国会で「悪魔の証明はできな
い」と自らの疑いをほねのける
事態が横行している。こう
した一部政治家の悪弊を退け

るためにも、海外に倣い一層
の政治家批判の自由拡大を、
制度的に認める時期にきてい
るのではないかと。
(毎月第2火曜日に掲載)

日々論々

作家でマルチタレントの
どうせいこうさんが被災から
まもなく丸七年を迎える福島
県に行き、老若男女、さまざま
な人々の思いを聞くという
本企画。今回は避難先で臨時
災害FMラジオ局を立ち上
げ、パーソナリティーも務め
る吉田豊子さんに会うために
富岡町まで足を運びました。

吉田さんが待っていたの
は、所属する富岡町社会福祉
協議会の建物。富岡町は一部
地域を除き、昨年四月に避難
指示解除となり、郡山市に避
難していた避難者も社会福祉協

やればばい

ところが町がラジオの打ち
切りを決定。三月末で放送終
了になるという。
「えーっ、そんなもったい
ない」といこうさん。「でも
大丈夫。ネットラジオをやれ
ばいい。やり方は全部教えま
す。任せてください」と胸を
たたく。
そのつえ「番組に出てもら
えますか」といこうさんの
お願いを「もちろんです」と快
諾。なんどぶっつけ本番で取
録が始まってしまった。



いこうさんの代表作の小説
「想像ラジオ」は、津波で亡
くなった男性の意識が想像力
を頼ってラジオを始めるとい
う話。気楽に自由に言葉を行
えられる道場としてラジオく
の思いは強いのだという。
一人の掛け合いは濃すぎた。
「富岡弁で『おもしろくて
ない』。意味わかりますか」
「超えてもない」
「がはは、一人前じゃない
って意味ですよ。『くでな
し』は、どうってことねえ」

安心したように吉田さんは
マイクを前に話し続けた。
「六年間、番組の中で言い
続けたのね。解除になっても
富岡に帰る人、帰らない人、
いろいろいるだろうけど、人
が選んだ道を尊重しようねっ
て。でも今になって、それが
良かったのかと思つて自分が
います。このまま帰る人がいな
ければ町はどうなってしまう
のか、とか。富岡弁も消えて
しまうのかな、とか」
熊本地震のテレビ映像を見
ていて、避難所生活の光景が
激しくラジオバックした
ことがあったという。
「こんな私が苦しみながら

東北 復興日記

まだまだ



丸森町地域おこし協力隊
阿部優子さん

▶▶▶ 241

東日本大震災は、豊かな農村の
暮らしがどんなに幸せだったか気
付かせてくれました。宮城県豊南
端の丸森町は厚土力災害による農
作物などの風評被害も大きく、町
を離れた友人も少なくありませ
ん。私も出身地・石巻市の現状を
見過ごせず一時町を離れました

あたりきりするほど互いのことを
知り、補い合う関係もできました。
農家から不良農産物を譲り受けて
分配したり、毛羽(蚕が繭を作る
時に足場となる最初に吐く糸)の
活用や、織り糸に使えない糸を和
紙材へ、和紙の切れ端を織材へし
無駄のない循環ネットワークも構
築されつつあります。
昨年末にはシルクを生かした暮
らしや生業としての魅力発信、経
済効果も視野に入れた展示販売会
を開催し写真。大沼教授のプロシ
ェクトで改装中の施設が会場にな